



2022-2023年度R.I.テーマ
イマジン
ロータリー

第2937回 例会

2022. 9. 1

会長あいさつ



2022-2023年度 深澤 圭司会長

週報 No.2204

発行 2022年 9月 8日

2022-2023年度

会長 深澤 圭司

幹事 門崎 由幸

副会長 長沼 大策

副幹事 坂本 忠光

編集責任者・公共イメージ向上委員会

委員長 坂 佳三

ゲスト

2022 学年度
ロータリー-米山記念奨学生

莊 正宇くん

行事予定

9月15日 社会奉仕事業
あゆみ会大石事業所

9月22日 地区役員卓話
2004-05年度ガバナー
北 清治様

9月29日 卓話 藤本和子弁護士
「ヤングケアラ
ーについて」

皆さん、こんにちは。本日もご出席いただきありがとうございます。先週、第3回目の会長・幹事会が開催され、世界ポリオデーについて内容が決まりましたのでお知らせします。10月23日(日)に上尾RC+上尾西RC+上尾北RCの3クラブが合同で上尾駅前にてポリオ募金を行う予定です。時間は未定ですがおそらく夕刻になり、その後、那須ガバナー補佐のご意向で、ぜひ3クラブで懇親会を開催したいとのこと。新型コロナウイルスの感染状況を鑑みて、今後懇親会を開催するかどうか決定するそうです。

さて早いもので、会長に就任してからもう2か月が経ちました。会長職を仰せつかって一番大変だと思うことは会長挨拶です。おそらく歴代会長も、月曜日あたりから会長挨拶の内容を考えて、火曜、水曜あたりで原稿をまとめたのだと思います。

会長挨拶は、PETSで井原バスターガバナーが「会長挨拶は会長の思い、それとロータリーについて話しをした方がよい。出来れば原稿用紙4枚程度にまとめて話をして下さい」と仰っていました。私も進んでロータリーの歴史や疑問点を調べる事でロータリーについての知識を身に付けることが出来ます。多分会長にならなければ、ロータリーについて細かく知る機会がなかったと思います。今後は、会長挨拶で自分が疑問に思った事や、ロータリーの歴史話をしていきますので、宜しくお願い致します。

話は変わりまして、コロナの第7波は、現在も猛威を振るっていますが、ここ数日で、気候も秋の気候に変わり大変過ごしやすくなりました。皆様は、秋と言えばどんな秋を連想しますか?私は、やはり秋と言えば、秋の夜長に最適な「読書の秋」です。私が、経営者になるときに大変参考になった本が『大空のサムライ』と言う本です。この本は、日本海軍航空隊の「坂井三郎」というパイロットの体験談を本にしたものです。1942年8月にガダルカナル島上空で航空機の戦闘において、パイロットの命である右目を負傷し、やっとの思いでラバウル基地まで生還し、視力不足の為一時は内地の教官を務めましたが、戦争が激化するにつれ、再び最前線に駆り出され硫黄島上空の

計器を見ながら飛行で全く神経が休む暇もありませんでした。また暫くすると、2番機が風防を開けて口をパクパクさせながら近づいてきました。右を見ると3番機も風防を開け口をパクパクしながら近づいてきました。坂井は、僚機の2機は私を信じていないと確信しました。坂井自身、航法に不安で仕方が無いのに2機にとってはなおさらだと感じました。当時の軍紀では捕虜になることなどありえない時代でした。坂井自身、ここで頑張ることをやめ操縦かんを手に倒し海面に向かってダイブをすればそれを見た僚機も私にしたがって自爆するか、または、私を振り切ってそれぞれが思い思いの方向に向かっていってしまえば、それは死を意味します。何故なら、彼らは坂井より経験が浅いからです。そう思った途端、絶対にあきらめてはいけない。もしかしら、飛行場はすぐそこまで来ていかもしれないと思えば、更に坂井自身も風防を開ける目視をして目標物を探し始めました。「このままではいけない」。そこで坂井は考えました。まずは、2機を落ち着かせよう。そして、俺を信じてついて来いという気持ちにさせよう。そして何よりも、俺自身余裕のあるところを見せよう、と思ったそうです。そして坂井は、2機にもっと近くに寄れと飛行機をバンクさせました。2機は近づいて来ました。ここからは、彼らの顔もしっかりと見えます。二人とも物凄く不安な顔をしています。二番機は不安のあまり泣きそうな顔をしていました。そこで、坂井はここで彼らを落ち着かせるために、そして何より自分自身平常心を取り戻すために雑脳袋からバナナを取り出しそれを頭の上で大きく回して二人に見えるように笑いながらバナナを食べ始めました。2機の僚機は更に坂井機に詰め寄ってきます。二人に「お前たちもバナナを食べろ」と指示してきました。二人は指示されたようにバナナを食べ始めました。坂井は、二人を見ました。最初は不安でいっぱいだった顔が笑いながら食べているところを見てしめたと思えました。それから、2機の僚機は坂井を信じて編隊飛行で飛行を続け、やっとの思いで台湾のガラビ岬にたどり着くことが出来たそうです。飛行場に着陸すると、二人は駆け寄り坂井の両腕にぶら下がって来ました。ここで坂井は二人に「良くついて来たな」と問いかけてました。すると、「最初は物凄く不安でした。いっその事先任搭乗員を振り切っていったし

Rotary ROTARY CLUB OF AGEO

空中戦では、敵機2機を撃墜したものの視力不測の為、敵機を味方と誤認してしまい敵機15機に囲まれましたが、その包圍網を卓越した操縦技術で突破し味方のいる飛行場まで生還したという大空のサムライの話です。この坂井氏は、著書の中でリーダーとはいかに言うことを数多く語っていました。その中で興味深いリーダーとはいかにあるべきかという1つのエピソードをご紹介します。

日本が太平洋戦争に踏み切り侵攻作戦を実施していた時の話です。当時台湾は、日本領で現在上尾と姉妹クラブにある台南東北クラブある台南基地から、フィリピンのルソン島にあるクラークフィールド基地に爆撃をする任務に就き、爆撃機を護衛するために18機のゼロ戦が護衛につきました。爆撃は成功して帰路についてから暫くすると、前方視界がほとんど見えないうらい暴風雨に遭遇してしまいました。18機のゼロ戦は編隊飛行では危険だと判断し、小隊ごとの行動をとる様に飛行機をバンクさせました。爆撃機は、9人が搭乗して航海上も搭乗しているのが無事基地まではたどり着くことが出来ません。しかし、暴風雨の中で今や編隊はバラバラになり小隊規模で、目的地の台南の飛行場を目指して飛んでいます。ゼロ戦は単座の一人乗りです。しかも、2機の僚機を従えています。この時、坂井自身も暴風雨の為、目標がつかめず航法に自信を無くしていました。しかし、こんな時こそ頑張らねばならぬ。2機の僚機を無事に飛行場まで送り届けるまでは俺は死ぬと自分自身に暗示をかけたそうです。暫く飛行を続けていると、2番機が坂井の指示進路に不安を持ち、風防を開け口をパクパクさせ身を乗り出しながら彼のそばまで来ました。恐らく「先任搭乗員、この進路で会っているんですか?私は違うと思います。もうついていけませんよ」と言っているかのようでした。坂井自身自分が飛んでいる進路に不安がありましたが、ここはリーダーとして何をすべきかと考え、彼に向かって歯を見せにっこりと笑って見せました。先ず彼は、リーダーが迷っている姿を見せてはいけないと思ひ、坂井を信じさせるために歯を見せて笑った仕草をとりました。余裕のあるところ、自信のあるところを部下に見せつけつけねばと言う思いでその行動をとりました。それを見た二番機は少し落ち着いて定位置に戻ったそうです。相変わらず、雨は滝のように降り注いでいます。坂井自身、コンパス、高度計、燃料系あらゆる

計器を見ながら飛行で全く神経が休む暇もありませんでした。また暫くすると、2番機が風防を開けて口をパクパクさせながら近づいてきました。右を見ると3番機も風防を開け口をパクパクしながら近づいてきました。坂井は、僚機の2機は私を信じていないと確信しました。坂井自身、航法に不安で仕方が無いのに2機にとってはなおさらだと感じました。当時の軍紀では捕虜になることなどありえない時代でした。坂井自身、ここで頑張ることをやめ操縦かんを手に倒し海面に向かってダイブをすればそれを見た僚機も私にしたがって自爆するか、または、私を振り切ってそれぞれが思い思いの方向に向かっていってしまえば、それは死を意味します。何故なら、彼らは坂井より経験が浅いからです。そう思った途端、絶対にあきらめてはいけない。もしかしら、飛行場はすぐそこまで来ていかもしれないと思えば、更に坂井自身も風防を開ける目視をして目標物を探し始めました。「このままではいけない」。そこで坂井は考えました。まずは、2機を落ち着かせよう。そして、俺を信じてついて来いという気持ちにさせよう。そして何よりも、俺自身余裕のあるところを見せよう、と思ったそうです。そして坂井は、2機にもっと近くに寄れと飛行機をバンクさせました。2機は近づいて来ました。ここからは、彼らの顔もしっかりと見えます。二人とも物凄く不安な顔をしています。二番機は不安のあまり泣きそうな顔をしていました。そこで、坂井はここで彼らを落ち着かせるために、そして何より自分自身平常心を取り戻すために雑脳袋からバナナを取り出しそれを頭の上で大きく回して二人に見えるように笑いながらバナナを食べ始めました。2機の僚機は更に坂井機に詰め寄ってきます。二人に「お前たちもバナナを食べろ」と指示してきました。二人は指示されたようにバナナを食べ始めました。坂井は、二人を見ました。最初は不安でいっぱいだった顔が笑いながら食べているところを見てしめたと思えました。それから、2機の僚機は坂井を信じて編隊飛行で飛行を続け、やっとの思いで台湾のガラビ岬にたどり着くことが出来たそうです。飛行場に着陸すると、二人は駆け寄り坂井の両腕にぶら下がって来ました。ここで坂井は二人に「良くついて来たな」と問いかけてました。すると、「最初は物凄く不安でした。いっその事先任搭乗員を振り切っていったし

Rotary ROTARY CLUB OF AGEO

まおうと思ひました。しかし、笑いながらバナナを食べる姿を見て、よほど航法に自信があるんだと思ひ安心してついていくことが出来ました。」と書いていました。三番機は「先任搭乗員がいつ操縦桿を突っ込むのか覚悟をしていました」と書いてきました。そこで坂井も「実は俺も貴様たち以上に不安だったんだぞ。しかし、リーダーの俺が迷っているのは、貴様たちは俺を信用しないからな」と笑って返しました。すると、二人は「先任搭乗員も不安だったんですか?」と笑って答え、その後この僚機は坂井に絶大な信頼を寄せたそうです。

私は以前卓話で、先代の社長が亡くなって怪文書が、業者や役所に送信され、会社の存続が危うくなりかけた話をしたことがあります。会社や従業員を守るためにいろいろやりました。その時は、この『大空のサムライ』を読んで勇気づけられました。興味のある方は是非、ご一読されてみてください。

そして、今は上尾ロータリークラブの会長職を務めています。私も素晴らしいリーダーを目指していきたいと思ひますので、今後ともご指導宜しくお願い致します。

Rotary ROTARY CLUB OF AGEO

いくつかの黄色い彼岸花を見ました。とても美しかったです。9月中旬が見頃ですので、お時間がありましたら皆さま行ってみてください。引き続きよろしくお願い致します。

近況報告

樋口 雅之 会員

近況報告は2件あります。上尾市の西宮下から新大宮バイパスに向かう道で、いきなり赤い旗が出てきて停められました。車の時速は48kmだったのでそんなはずはないと思ったのですが、この道は時速30km制限で15kmオーバーした。この道路を走る時は皆さんもお気をつけください。



もう1点は、今年度私は地区の青少年交換委員長を仰せつかっていて、7~9月あたりがいちばんピークになります。今まで1年間研修してきた学生が海外に飛び立ち、それと交換で、海外から学生が来日します。さらに来年交換留学したい学生の募集・選考・面接があり、可否通知を発表します。相手が高校生なのですべての会議が日曜日、朝から夕方5時頃まで行われます。この委員会は委員長が資料を作るのですが、その資料が膨大な量になりました。紙で配るとすごい量なので、PDFデータにして配信しています。この資料づくりにも時間がかかります。資料づくりが大変ですが、3年ぶりの交換留学再開で高校生たちが喜んでいて、この事業に携わって良かったと思ひます。まだまだ年度が始まったばかりですので引き続きご支援のほどお願いいたします。

例会主題~部門セミナー報告

青少年奉仕部門

青少年奉仕委員会 樋口雅之委員長

いま近況報告したように、地区の青少年交換委員長を仰せつかっています。クラブでは青少年奉仕委員長ということで報告させていただきます。7月23日(土)、13:30から上尾市文化センターでセミナーが行われました。受講側ではなく、設営側で朝から文化センターに行きました。

当地区の青少年奉仕部門は、インターアクト、ローターアクト、RYLA、青少年交換の4つの委員会が

幹事報告

門崎 由幸幹事

◇先週、藤村委員長からお配りした会員増強のワークシートにご記入いただきましたら、藤村委員長にお渡しください。



◇地区からRLI開催の案内がきています。Part1が12/10、Part2が1/21、Part3が2/18となります。いずれも大宮ソニックシティで9:00~17:00の予定となっています。対象者に参加のお願いをさせていただきます。

◇本日も部門セミナー報告ですが、来週で最後の部門セミナー報告になります。受講された委員長は報告の準備をお願いします。

ロータリー-米山記念奨学金授与

2022学年度 ロータリー-米山記念奨学生 莊正宇くん

昨日、先生と同級生と一緒に巾着田曼殊沙華公園(日高市)に彼岸花を見に行きました。満開の花を期待していましたが、まだシーズンには早くてあまり花は咲いていませんでした。しかし幸いなことに

あります。まずローターアクト委員会からですが、年齢制限がなくなって30歳以上のローターアクターがまだいないのが課題でした。また今年度からローターアクターも人頭分担当金を納めることになったので、どのように拠出するかも課題となっています。ローターアクトの今年度の活動目標は、会員増強、他の活動への参加、奉仕PJでロータリークラブへの協力などです。

RYLA委員会、前年度の最後に行った宮古島での研修報告をしました。

青少年交換委員会は、これから留学に行く学生さんが意気込みを発表しました。

インターアクト委員会は、各インターアクトクラブの活性化・推進、新たな提唱クラブの設立、インターアクト年次大会・インターアクト協議会の支援、韓国3750地区との交流事業が目標に掲げられました。8月下旬に開催されたインターアクト年次大会はZOOMで開催され、上尾高校さんがヤングケアラーについて発表していました。

ロータリー-財団部門

ロータリー-財団委員会 齋藤修弘委員長

7月30日に大宮パレスホテルでセミナーが開催されました。ガバナー、公式訪問でガバナー、今年度の部門セミナーは座学形式ではなくディスカッション等、趣向を凝らすと仰っていたように、当日前半はポリオ・プラスの活動報告があり、その後第一地域ロータリー財団地域コーディネーター・飯村慎一さん(宇都宮90RC、2550地区バスターガバナー)の基調講演があり、次にRI日本事務局財団室の方をお招きしてパネルディスカッション、後半には藤村先生が委員長を務めている資金管理委員会からの財

団実績報告と、最後に財団奨学生(現在はお医者さん)の奨学生時代から現在の活躍について、確かに趣向が凝らされていました。ポリオ・プラス活動報告ではポリオ根絶の動画が放映され、アフガニスタンとパキスタンの国境付近で5歳以下の子供たちにワクチンが投与されているシーンなどが紹介されました。ポリオ根絶は「あと少し」と言われたがまだまだ根絶されていません。今までに投与されたワクチンは4億3千万人ぶんだそうです。もし投与をやめてしまうと毎年20万人にポリオが発症してしまうので、根絶まで寄付が必要だと思ひました。

米山記念奨学部門

米山記念奨学委員会 宇多村海児委員長

8月7日に旧ラフレさいたま3Fで行われた部門セミナーが行われました。細淵ガバナー、島村部門委員長(当クラブ)のあいさつ後、3つのセッションに分けてセミナーが開催されました。1つ目は米山記念奨学事業について、2つ目は米山寄付増進について、3つ目は奨学生の選考および世話クラブの選考についてでした。その後、基調講演でよねやま親善大使のアドゥアヨム・アヘゴ・アクエテビさん(トーゴ共和国)が義足の研究成果をされて、母国での利用改善を広めていくとお話しされました。また初めての試みで、各米山記念奨学生が通う大学の教授がお見えになって米山記念奨学事業について一言ずつコメントをいただきました。教育機関側のお話しも聞いて良かったなと思ひました。



部門セミナー報告いただきありがとうございました!

スマイル

- 深澤会長/門崎幹事/長沼副会長/坂本副幹事/武重会員/大塚信郎会員/村岡会員/尾花会員/大木保司会員/島村会員/久保田会員/藤村会員/樋口会員/宇多村会員/齋藤修弘会員/小田切会員/関口良康会員

出席率	
会員数	35
出席対象者	30
出席者数	17
56.67%	

例会日 毎週木曜日 12:30~13:30 事務所 〒362-0035 埼玉県上尾市仲町1-8-31 新和エクセルビル303
例会場 上尾東武ホテル3F(コミュニティホール) TEL 048-775-7788 / FAX 048-776-9799

